

# 子ども達の部活動に焦点を当てたメディア開発と 地域コミュニティの活性化

コミュニティデザイン学科 大森玲子

毎日新聞社(株)内山 勢, 山本 建 NPO法人キーデザイン 土橋優平

## (1)研究背景と目的

学校単位の部活動の取り組みが、教員の業務負担を大きくしており、子ども達の居場所が学校から学校の枠を超えた地域ごとの活動へと移行しつつある。従来、学校というメディアを通じて子どもたちの部活動での様子や活躍が地域に伝えられてきたが、今後、部活動の場が学校から離れていくことが想定されるため、その活動を紹介するメディアが必要となる。また、子どもの活動は地域をつなぐ役割を果たすことから、上記メディアを通じて地域コミュニティの結束を強めることにもつながる。

本研究では、基盤教育科目「地域メディア演習」を受講した学生で結成する「とちぎキャンパー倶楽部」メンバーが**子ども達の部活動取材し、雑誌を作ることで、部活動の応援と地域コミュニティの再生を兼ねた取り組みを実施する。**

## (2)研究計画と方法

本研究では、子どもたちを主役にし、部活動の楽しさを伝える内容の雑誌を制作する。地域の児童・生徒を主役としたメディアはこれまでありそうでなかったことから、実験的に第1号を制作し、その進め方や反響を調査する。今後とも継続可能な地域の部活動応援雑誌の嚆矢としたい。

過去2年間の取り組みで育成した学生の取材・編集能力を活かしつつ、地域コミュニティ再生の一手法として今回の取り組みを体験してもらうことにより、参加した学生にとっても将来のキャリアにつながる仕組みとする。

これまでの取り組みが主に大学及び毎日新聞紙上を舞台とし、大きく地域という枠組みで情報発信してきたのに対し、今回は子どもたちの部活動という特定の目的にフォーカスし、子どもたちの部活動支援と地域コミュニティの再生という特定の目的をもって部活動応援雑誌を制作、市場に配布する点で、その意義及び効果が大きく異なる。

## (3)成果の活用

高校生を主体とした学際型部活動は2014年から栃木県内で徐々に広がり始め、大小を含めて現在十数団体が存在する。少子化で高校ごとの生徒数が減少し、部活動の維持が困難となっていること、まちづくりの主体として高校生を含めた地域の子供達に注目が集まっていること、将来地域へUターンする若者を増やすために地域コミュニティで活動したという思い出が効果的であること、などが背景にある。そこで、こうした取り組みをサポートすべく、彼らの活動を発信し、今の高校生や将来高校生になる子ども達に、一つの選択肢として学際型部活動で地域コミュニティ活動に取り組むことを提案し、合わせて子どもたちの部活動支援と地域コミュニティの再生という目的を果たすこととした。具体的には主に以下の団体を雑誌の中で紹介している。

### とちぎ高校生蔵部

2014年4月設立。とちぎ高校生蔵部(くらぶ)の設立は、これからのまちづくりの担い手として期待する若者の意見を市政に反映させる「まちの部活動」としてスタートしました。

2018年度は、栃木市内8高校の生徒を中心に足利市、佐野市、鹿沼市、日光市、矢板市、壬生町の高校に通う高校生も含め計36名が参加しています。

発足から関わってきた顧問の壺谷悠樹さんによると、地方の人口減少は大学進学などでまちを出て行った若者が帰ってこないことが原因です。壺谷さんは「高校を卒業して故郷を離れる前に、地元に残りたい人がいれば、若い世代は行ったきりにはなりません」と話します。



### 栃木県学生未来発展向上委員会

県内の駅前を中心に清掃活動や祭り、イベントでのボランティア活動や独自イベントの企画・開催などを通じて若者の視点で栃木県を盛り上げていくことを目的に、2017年9月1日に任意団体として設立しました。

設立とほぼ同時に運営にかかわった県内高校生による食の祭典「とちぎハイスクールフェスティバル」はすでに2回開催し、若者視点で県産品を使った新商品を生み出しつつあります。また、夏に開催される宇都宮市の宮まつりや県内各駅前での清掃活動は、仲間が2、3人集まれば手軽に始められることからメンバーを通じて県内各地で取り組みが広がり、ごみのポイ捨て抑止などの効果が生まれています。

メンバーは現在、66人。県内各地の32校からいろんな活動や月1回の定例会に都合に合わせて参加しています。



### YAITA ALL DIRECTIONS

県北部の矢板市で、学校の枠を超えて市内の高校生が集まり、まちの活性化や高校生の居場所づくりに取り組んでいます。会員は2019年1月時点で15名。学生主体で昨年7月に発足し、その年の秋に開かれた花火大会でお店を出すなどして運営にかかわったほか、現在は矢板市街地の街歩きマップを作成しています。

彼らが最も力を注いでいるのが、高校生が気軽に集まったり、勉強したりできる「高校生カフェ」の実現。代表の椎貝菜月さんによると、高校生の利用しやすさを考えてJR矢板駅周辺を考えているそうで、2019年度の目標として、高校生カフェの設立に向けた準備作業と街歩きマップの作成を考えています。



子どもたちの部活動応援雑誌というこれまで存在しなかったメディアの可能性を大学発で社会に提示する。県内全域で部活動応援雑誌の発行を促し、子どもの部活動応援と地域コミュニティ再生という2つの目的を達成することができる。これまでの取り組みが県外の人々に対して県内の情報をいかに発信するかを主眼としたのに対し、今回は県内の子どもたちの部活動を応援するとともに、子どもを核とした地域コミュニティの再生を図ることで、後に続く同様の取り組みを活性化し、子どもを通じた地域コミュニティ再生を持続可能なものとする。

発行は2019年3月1日予定。宇都宮大学生協や宇都宮市まちづくりセンター「まちぴあ」他、公共施設等で無料配布する。